

『令和7年度 第1回 佐賀市立小・中学校のあり方検討委員会』
会 議 録

開催日	令和8年2月27日（金）	
開催時間	午前10時00分～午前11時45分	
開催場所	佐賀市役所大財別館4階 4-2会議室	
出席者	委員等	嘉村委員、草場委員、小城原委員、梅崎委員、辻委員、中尾委員、江口委員、森委員、釋委員、川副委員、下川委員
	事務局等	丹宗教育長、堤教育委員（教育長職務代理者）、楨原教育委員、豊田教育部長、横田副部長兼教育総務課長、川副学事課長、水田学事課主幹、野中学校教育課係長
議 事	報告 佐賀市立小・中学校の児童生徒数の推移と将来見通し等について	
欠席委員	なし	
傍 聴 者	報道1名	

議 事

1 開会

2 委嘱状交付

3 教育長挨拶

4 委員紹介

5 委員長・副委員長の選任

- ・嘉村委員を委員長に選任。了承される。
- ・嘉村委員長より草場委員を副委員長に選任。了承される。

6 委員長・副委員長挨拶

7 諮問

8 報告

佐賀市立小・中学校の児童生徒数の推移と将来見通し等について

(事務局)

- ・資料4に沿って、佐賀市立小・中学校の児童生徒数の推移と将来見通し等を報告
- ・佐賀市学校教育ビジョン2025に沿って、佐賀市が目指す教育を報告

(委員長)

- ・事務局から、主に3つの説明があった。
 - 1つ目が、佐賀市の小・中学校の現状（児童生徒数の推移等）。
 - 2つ目が、国、文科省としてどういう考え方を示しているのか。
 - そして3つ目が、佐賀市が目指している教育はどういうことか、という点。事務局の説明に対して、確認したい点や質問があればお願いしたい。

～特になし～

(委員長)

- ・今日は、初めての場でもあり委員それぞれの立場から所感・意見を伺いたい。
- ・まずは、学校現場からの意見をお願いしたい。

(委員)

- ・学校の在り方を考えたときに、様々な規模の学校で教員をした経験からすると、「適正」というものをどう捉えるのかが重要だと感じている。
- ・財政面での適正、地域の実態による適正、保護者の思い、教職員の働き方、若手が増えて経験年数のバランスが崩れていることなど、いろいろあると思うが、一番は子ども。
- ・子どもを真ん中に置いたときに、子どもの特性やコミュニケーション能力、学力など、子どもたちにとっての適正とは何かをよく考えて判断する必要があると思う。
- ・小さな学校のほうが合う子もいれば、うまくいかなかった場合に別の環境がよい場合もある。

- ・大人との関わりで言うと、大規模校にいるから大人との関わりが多いというわけではなく、担任がほとんどで関わる大人は限られる。
- ・小さな学校だと、地域の方が授業に関わってくださるなど、大人の多様な意見に触れる機会が多いこともある。
- ・「学校を選択できる」ような考え方も課題としてあるのではないかな。
- ・ただ、距離があって行けないなど、保護者の負担もあるので、そういった条件整備も含めた視点が必要だと思う。

(委員)

- ・事務局の説明を聞きながら、小規模校のメリット・デメリットはどちらも理解しつつ、本当に良いところがたくさんあると日々感じている。
- ・地域の方が多く関わってくださるし、地域行事も盛んで、子どもたちも誇りや安心感を持っている。
- ・保護者・祖父母・地域の方まで顔が見える関係があると思う。
- ・ただ、人数が少ないので、授業で多様な考えに触れる機会をどう確保するかは課題である。
- ・道徳の研究をしているが、人数が少ない分、多様な意見に触れることが難しい場面がある。
- ・そこで、学年をまたいで一緒にしたり、保護者に授業に参加していただいたり、最近AIの活用も検討したりしている。
- ・どういった環境で学ぶのが子どもたちにとってのwell-beingにつながるのか、これから考えを深めていきたい。

(委員)

- ・資料4(12ページ)の大規模校のデメリットを見ると、デメリットは「そのままデメリットとして残す」のではなく、学校経営として工夫とアイデアで改善していくべきものだと思っている。
- ・例えば「一人一役」を必ず与えて行事を行っていくなど活躍の機会を保障し、達成感や充実感を味あわせる仕組みで改善している。
- ・どの学校もデメリットが残ったままの運営はしていない。
- ・合意形成する力などは、ある程度の人数がいて、いろんな人と関わり、諸課題が起き、その中で学ぶ機会があるというメリットは大きいと思う。
- ・大きな学校は問題も多いと思われがちだが、問題がある分、成長できる機会があると捉えている。

(委員)

- ・小規模の学校に勤めた時に、「すごい」と感じたのは、学年間の思いやり。
- ・登校時に中学生が小学生を待って声をかける。昼休みに小学生と中学生と一緒にサッカーをする。そして中学生が小学生に配慮してプレーする。といった場面が当た

り前にある。

- ・大規模校ではいろいろな子どもの考えがあり刺激があるが、小規模校ではそれが少ないと感じることがある。
- ・子ども同士の関係が、小学校から決まった状態で中学校に進学している。
- ・小規模校から高校に進学し、いきなり40人近い学級になったときに適応できるのか心配していたが、卒業生が来校した際に話を聞くと適応している様子がかえ、安心した。
- ・小規模校時には、交流を増やす取組もしてきたが、1日、2日では難しく、どう工夫するか考えていた。

(委員長)

- ・続いて地域からのご意見を伺いたい。

(委員)

- ・学校教育ビジョンはとても良い。ぜひ保護者にも配布してほしい。
- ・この問題は、保護者がしっかり協力しないといけないと思っている。
- ・今、保護者は学校に任せきり、あるいはスポーツ団体に任せきりで、家庭教育が弱くなっていると感じる。
- ・昔は地域と学校が親密だったが、子どもが少なくなり、子ども同士の世界が家庭内で作りにくくなっている。
- ・兄弟がいると子どもの世界ができるが、一人だと難しい。
- ・学校だけでは到底できない。学校・家庭・地域が一緒になってやらないといけない。

(事務局)

- ・学校教育ビジョン2025のリーフレットについては、学校行事の際やPTAの総会また、先日行われた青少年育成健全大会・まなざし大会の折にも配布をして周知を図っている。

(委員)

- ・PTAも少なくなっている。子どもたちに何を教えるか、みんなで考えていかないといけない。
- ・移住者もいるが、雪が多いなど、条件も厳しい地域なので、いろんな目で見ていきたい。

(委員長)

- ・続いて保護者の立場からご意見を伺いたい。

(委員)

- ・先ほど家庭教育の大切さの話があり、本当にそのとおりだと思う。

- ・学校のあり方については、行政も学校も同じだと思うし、PTA としても関心が高いテーマである。
- ・資料 4 10 ページの「12 学級以上 18 学級以下」という標準について、当時どのような背景で定められたのかを知りたい。
- ・示されているメリット・デメリットは一般論だと思うが、佐賀市の現状として、現場の声（先生や子どもの実感）を吸い上げた上で基本方針を定めないと、ずれが生じるのではないかと思う。
5 年後、10 年後では、今デメリットと思われることがメリットになる可能性もあるので、資料のアップデートも含めて整理していただきたい。

- ・資料 4 10 ページのただし書き「地域の実情その他により特別の事情があるときはその限りではない」は重要だと思う。
- ・子どもの幸せを真ん中に置いて、子ども視点で検討していきたいと思う。
- ・子どもが何を考えているのか、どんな景色が見えているのか、そこを真ん中に据えて議論したい。

(委員長)

- ・資料 4 10 ページの文科省が示している標準学級数の背景について、事務局から補足できるか。

(事務局)

- ・「12 学級以上 18 学級以下」は学校教育法施行規則で定められているものだが、当時の背景について、現時点では資料を持ち合わせていない。次回以降、回答させていただきたい。

(委員長)

- ・2 点目、佐賀市内の声（現場の声）の把握について、今集めている、あるいは集める予定はあるか。

(事務局)

- ・現時点で、規模に関するメリット・デメリットのアンケート等を実施していることはない。
- ・今後、重要だと思うので検討していきたい。年度初めは学校現場が忙しい時期でもあるので、実施する場合は時期も含めて考える必要があると思っている。

(委員長)

- ・委員の意見を踏まえて次回に向け資料等を準備していただけるとありがたい。

(委員)

- ・私の地域は小学校がとても小さく、同じ学年が5人ということもあった。中学では70人程の学年だったが、小学校の5人は全員10番以内に入る成績だった。小規模校だからこそ伸びた面もあるのではと感じている。
- ・学年をまたいで関わる機会も多く、文化発表会等で人前に立つ経験も得られている。
- ・佐賀市は合併で縦に長くなり、山から海までである。人口減少は山側・海側が特に早いと感じる。
- ・通学1時間以内という基準でいくと、将来は中心部に寄っていくのかなとも思う。
- ・ただ、地域としては子どもの声がなくなると地域が寂しくなるという思いがあり、小学校の運動会は地域全体の行事になっており、子どもがいなくても参加する方もいる。
- ・中学校では次年度からコミュニティスクールが始まる。保護者も学校も地域も含めて子どもたちを育てていきたいと思う。
- ・佐賀県も「子育てし大県さが」を打ち出している。様々な課題もあると思うが、子どもが減ったからこのような会議をする、というだけでなく、子どもが増えるように、人口が増えるようにという視点も必要だと思う。

(委員)

- ・私の子どもは学校に行きたくない時期があったが、小規模校で先生たちが温かく迎えてくれたので、学校に行くことができた。学校現場の方には感謝している。
- ・人口減少の問題は、小さい学校ほど影響が大きく、保護者としても気になるところ。
- ・個別学校の話はこの会議で決める場ではないと理解しているが、やはり気になる点である。

(委員)

- ・大学で全国の組合立学校の研究をしている。学校は地域の拠点であり、地域のまともにも関わると感じている。
- ・一方で、少子化の中で「12～18 学級」という標準は、小学校ではクラス替えができる規模、中学校では教科担任がそろう規模、という観点から出てきたのだろうと考えている。
- ・小規模校では教科担任が確保できず、免許外で持ったり、複数校兼務の先生がいたりすることもある。
- ・地域とのつながりも大切にしなければならない。
- ・非常に難しい問題だというのが率直な意見である。

(委員長)

- ・委員の方々の意見を聞き、私が感じたのは、子どもの話が多く出たこともあり、「子どもを大事にして、この委員会の議論を進めていく」という点である。
- ・佐賀市の子どもたちの将来の幸せのために、学校のあり方をどうするのかという視

点を忘れずに議論していきたいと思う。

(委員長)

- ・佐賀市が示している学校教育ビジョンでは、子どもが幸せになるために必要な力として「自律」「尊重」「創造」を掲げている。
- ・学校の視点、地域の視点、保護者の視点で、意見があればお願いしたい。

(委員)

- ・北部地域では、現在移住者支援に取り組んでいる。移住者支援などで若い方が増えれば、児童生徒も増えると思う。
- ・交通条件は厳しいが、そういう取組も大切だと思う。

(委員)

- ・この学校教育ビジョンは非常に良い指針である。
- ・ただ、「自律」「尊重」「創造」が、子どもにとって具体的にどういう場面なのかは、子どもによって違う。
- ・大人の視点で「これが尊重」と決めつけると、子どもにとっては違うこともある。
- ・例えば、小規模校の子どもは安心感を得て自信を持ち、人前で堂々と発表できるようになることがある。
- ・大規模校では、多くの人前で発表する機会によって伸びることもある。
- ・同じ環境でも伸び方は子どもによって違うので、多様性に対応できる体制をとることが重要だと思う。
- ・学校現場、地域の視点で考えていくことも必要である。

(委員)

- ・個別の話になるかもしれないが、熊本県境の地域では、少人数のデメリット（クラス替えができない等）を補うために、曜日を決めて複数校が1つの学校に集まり合同で体育や合唱をする仕組みがあり、スクールバスで移動していた。
- ・ICTが進んだ今は、バーチャル教室のような方法もあると思う。

(委員長)

- ・学校はデメリットがあるからといって放置するのではなく、必ず工夫して改善を図っている。
- ・ただ、物理的にどうしてもデメリットを改善することが大変な部分があるのも事実だと思う。
- ・地域と家庭と学校が密になって、人間教育も含めてやっていくことが必要だと思う。

(委員)

- ・学校教育ビジョン 2025 を保護者目線で見たとときに、この実現には、家庭教育が非常に大事だと思う。
- ・家庭教育の責任を負うのは保護者である。法律にも規定がある。
- ・学校で学んだことを家庭に持ち帰ったとき、子どもは親の姿勢や考え方を見ている。
- ・SNS トラブル等で学校への過度な要求を目にすることもあるが、親が「尊重」の姿勢を見せる必要がある。
- ・先生方は本音では「家庭でやってほしい」と思っている、言いにくいと思う。
- ・親がこれを家庭で実践していくことにならないと実現は難しい。
- ・だからこそ、PTA として、先生は言わないけれど「これは親がやらないといけない」と保護者に伝えていきたいと思う。

(委員長)

- ・今日は次回に向けての前提の整理、情報共有の時間だったと思う。
- ・私たちは子どもたちの幸せのために意見を出し合っていきたいと思う。
- ・次回もよろしくお願いいたします。

9 閉会